

# Cisco Unified SIP Proxy ( CUSP ) でのトレースログの有効化と収集

## 目次

### [概要](#)

### [イネーブルトレースログ](#)

### [GUI を使用する場合](#)

### [CLI を使用する場合](#)

### [トレースログ 収集](#)

### [GUI を使用する場合](#)

### [CLI を使用する場合](#)

### [から公共ファイル システム \( PFS \)](#)

### [SIP メッセージ ログイン](#)

### [ログストレージ 情報](#)

### [先端 9.0 およびそれ以降](#)

### [先の先端バージョンより 9.0](#)

### [関連情報](#)

## 概要

この資料は Cisco Unified SIP Proxy ( 先端 ) で利用可能な トレース ログをイネーブルに設定し、集めるためにさまざまなオプションを記述したものです。トレースは有効にすることができ、GUI か CLI から集まりました。この資料は各プロシージャを詳しく説明したものです。

## イネーブル トレース ログ

### GUI を使用する場合

1. 先端 GUI ( [http:// < 先端 Module>/](http://< 先端 Module>/) の IP アドレス ) にログイン して下さい。
2. **解決すべきナビゲート <トレース>**。
3. ボックスをトレースするイネーブルをチェックし次に問題を解決し、デバッグするためにレベルを設定 するように必須コンポーネントを選択して下さい。
4. 必要な変更を行なった後『Update』 をクリック して下さい。

### CLI を使用する場合

1. 先端モジュールにアクセスし、先端モードに行ってください。

```
Router#service-module sm 2/0 session
Trying 10.106.122.8, 2131 ... Open
CUSP# cusp
CUSP(cusp)#
```

2. トレースを有効にするために、トレース enable コマンドを実行してください:

```
CUSP(cusp)# trace enable
```

3. 必須先端コンポーネントを選択し、デバッグするためにトレース レベルを設定してください。

4. 複数のコンポーネントのためのデバッグを有効にするために前のコマンドを繰り返し実行する必要があります。

5. 提示トレース オプション コマンドで設定 する現在のトレースを表示できます。

## トレース ログ 収集

### GUI を使用する場合

1. 先端 GUI にログイン してください。
2. **解決すべきナビゲート > ログファイル**。これは集められたログを表示する。ファイルを表示するか、またはダウンロードできます。

注: 先端バージョン 8.5(5) および それ 以降は GUI からのログ バッファをクリアするオプションを提供します。先端バージョンがバージョン 8.5(5)より早い場合、ログは CLI と手動でクリアする必要があります。

3. CLI のログをクリアするために、このコマンドを入力してください:

```
CUSP(cusp)# clear trace log
```

### CLI を使用する場合

1. 順序ディスプレイでこのコマンドをログのコンテンツ使用して下さい:

2. スクロールリングを壊すために CTRL+C を押して下さい。
3. 提示トレース ログを使用して下さい |p コマンド トレース出力をページ毎に示すため。

## から公共ファイル システム ( PFS )

トレース ログを集めるもう一つの方法があります。これは先端が動作するファイル システムの PFS からあります。PFS は FTP とアクセスすることができます。

1. ユーザ名を作成し、このユーザに PFS 特権を割り当てて下さい。
2. 前の手順で定義される資格情報とのこの URL にアクセスして下さい。トレース ログが含まれている .log ファイルをダウンロードできます。CUSP>/cusp/log/trace/の ftp:// <IP

## SIP メッセージ ロギング

前のセクションで述べられるトレース ログから離れて Session Initiation Protocol ( SIP ) メッセージ ログは先端でまた利用できます。このログは先端から入って来、出かける SIP メッセージだけを表示します。GUI からの SIP メッセージ ログをイネーブルに設定できます。

1. 解決するべきナビゲート > SIP メッセージ ログ > 制御。
2. SIP メッセージ ログを解決するために調べるために、ナビゲート > SIP メッセージ ログ > 検索呼出します。

注: 先端が SIP メソッドを、ルートテーブルおよび正規化のようなどのように処理するか表示するために、トレースしますログを必要とされます。

## ログ ストレージ 情報

### 先端 9.0 およびそれ以降

先端バージョン 9 ( 仮想 な先端 ) およびそれ以降では、ログ バッファ サイズは 5 GB まで増加することができます。このバージョンでは、ログファイルのログおよび数を保存するためにディスクスペースを提供できます。

設定はここにあります 500 に 5 GB およびファイル数にログ サイズを設定 する。

Cisco は各ログファイルがパフォーマンス向上のために 10 MB であるはずであることを推奨します。

### 先の先端バージョンより 9.0

先端のより古いバージョンでは、ログ バッファ サイズは 200MB に設定 され、ファイルのトレース ログ バッファ サイズおよび数を変更するプロビジョニングするがありません。

## 関連情報

- [CUSP 設定例](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)